

策定年月	令和7年2月
見直し年月	

麦・大豆国産化プラン

産地名：会津坂下町坂本地区

（作成主体：会津坂下地域農業再生協議会）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

■麦生産の現状と課題

＜生産における現状と課題＞

本町農業においては、水稻を経営の柱とした農業経営が主体で、後継者不足を背景とした農業従事者の高齢化により、大規模農家への農地集積が進んでおり、水田での小麦の作付面積は減少傾向であるものの、畑地での作付面積は増加傾向にあり全体でも増加傾向にある。

しかし、近年の気象変動に伴う台風や大雨の頻発により、病害虫発生や排水不良を要因とする湿害の影響を受け、収量減少や品質低下等が課題となっている。

また、当該地区において実需が求める「ゆきちから」の生産拡大を今後も積極的に進めていくにあたり、現状機械の老朽化による作業性低下が適期作業の遅れ等を招いており、収量減少や品質低下の要因となっている。

さらに、中山間地域である本地区では、イノシシ等鳥獣被害が多発しており、作物の倒伏による収量減少や品質低下の要因となっていることから、効果的な対策を継続的に実施する必要がある。

■課題解決に向けた取組方針

(1) 安定した収量・品質確保に向けた取組

①排水改良

排水不良による湿害が収量減や品質低下を招いていることから、心土破碎を実施し排水性、通気性を改善することで根腐れ等を防止し、収量と品質の向上につなげる。

②病害虫防除、鳥獣被害対策

開花期における「赤かび病防除」を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を行い、収量・品質の確保と安全性の確保につなげる。さらに、鳥獣被害による収量減少・品質低下を防止するため、町支援制度を活用した電気柵設置や捕獲罠設置を積極的に進め、被害の未然防止に努める。

③施肥体系

肥効調整型肥料を播種同時作業で施用するとともに、必要に応じて追肥を行い、収量・品質の安定化につなげる。

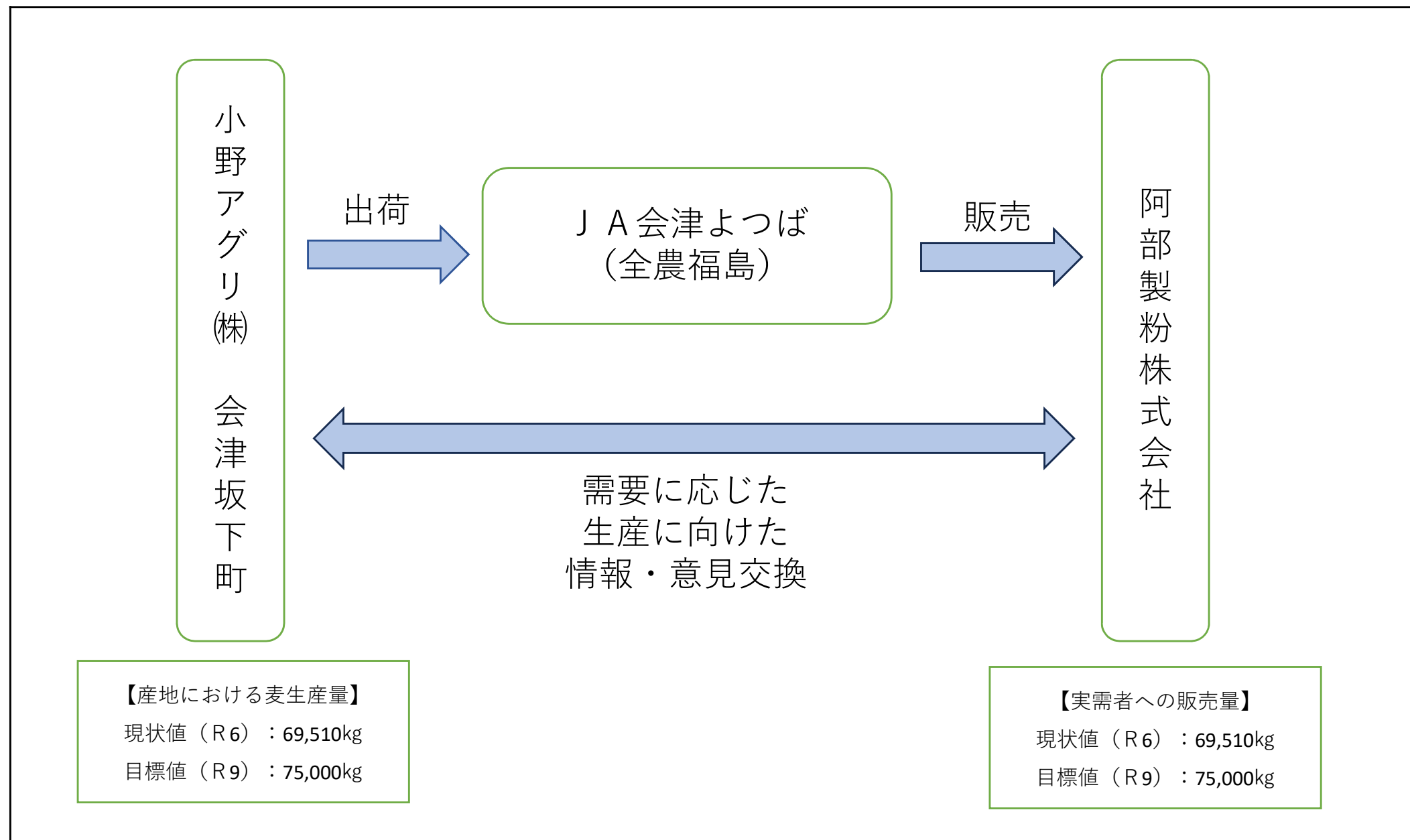
(2) 生産性向上に向けた取組

病害虫防除作業及び追肥作業においてはドローンを活用し生産の高度化と省力化を図る。また、基肥施肥は施肥同時播種機を活用し、作業効率化と省力化を実現し、生産性の向上につなげる。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

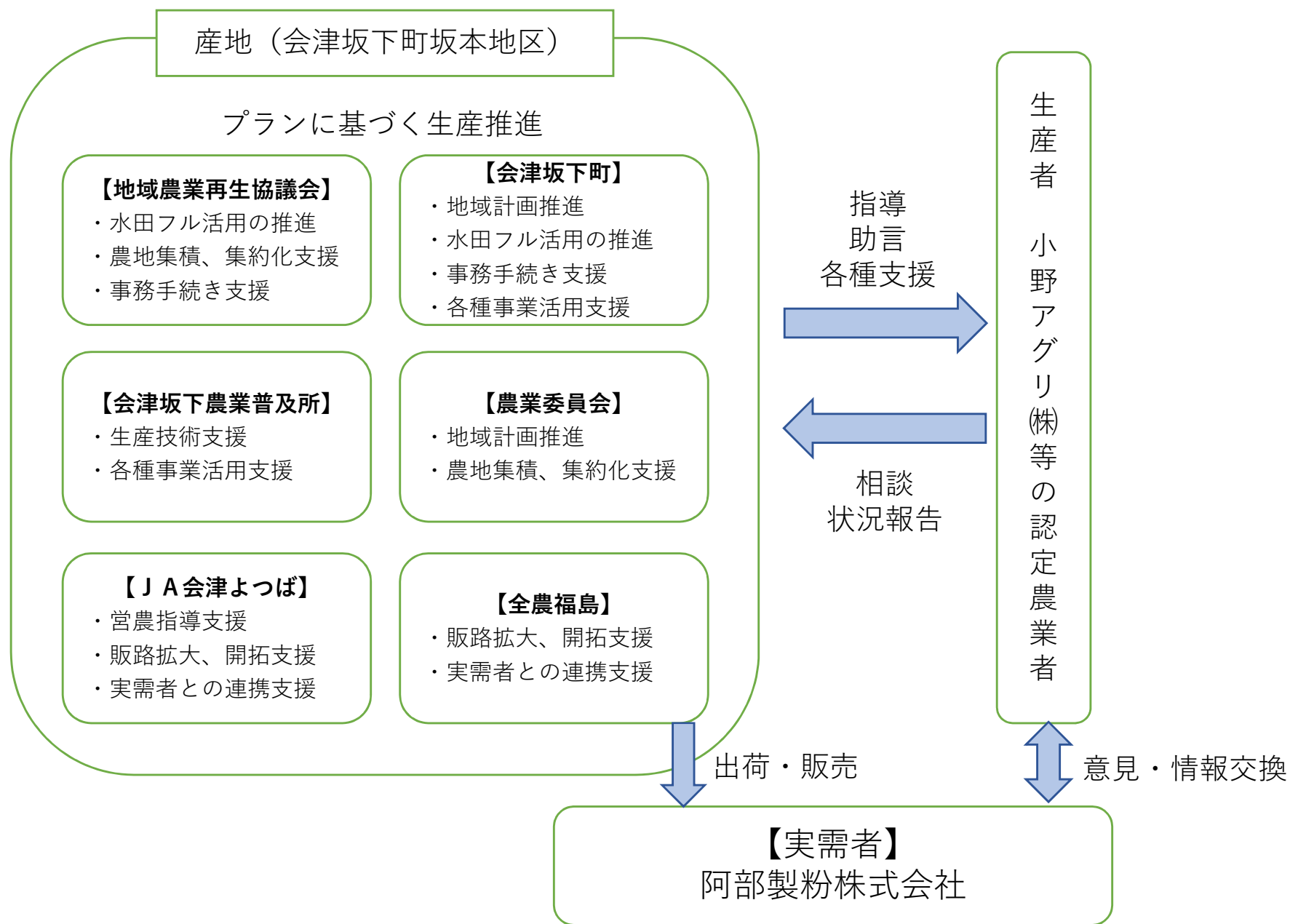
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。